

尾野山随風（番外）

2023. 12. 01

桑名紡績（三重紡績・東洋紡績桑名工場）の建物（1）

西羽 晃

私が勤めていた紙管会社は土地・建物は東洋紡績桑名工場の一部を買い受けたものである。東洋紡績桑名工場は桑名紡績として設立され、合併により三重紡績となり、さらに東洋紡績となって、昭和20（1945）年7月17日の空襲で大半が焼失したのである。焼け残った部分が戦後に紙管会社に譲られたのである。その時に不動産登記関係の一部書類も紙管会社に引き継がれた。紙管会社最後の社長であった私の手元に、その書類が保管してある。そのうちの一部を紹介する。

明治33年7月3日 登記

明治40年10月11日移転登記

桑名紡績

桑名紡績より三重紡績へ

所在地 桑名町大字三ノ丸1番地

所在地 桑名町大字三ノ丸1番地

市街宅地 10,433 坪

市街宅地 10,433 坪

煉瓦造瓦葺平屋 1棟 建坪1,630.8坪

煉瓦造瓦葺平屋 1棟 建坪1,630.85坪

木造瓦葺2階建 1棟 建坪35坪

木造瓦葺2階建 1棟 建坪35坪

木造瓦葺平屋 1棟 建坪118.98坪

木造瓦葺平屋 1棟 建坪118.98坪

木造瓦葺倉庫 1棟 建坪144坪

木造瓦葺倉庫 1棟 建坪144坪

木造瓦葺倉庫	1棟	建坪44.2坪	木造瓦葺倉庫	1棟	建坪47.2坪
木造瓦葺倉庫	1棟	建坪117坪	木造瓦葺倉庫	1棟	建坪117坪
木造瓦葺2階建	1棟	建坪121坪	木造瓦葺2階建	1棟	建坪121坪
木造瓦葺2階建	1棟	建坪121坪	木造瓦葺2階建	1棟	建坪121坪
木造瓦葺2階建	1棟	建坪121坪	木造瓦葺2階建	1棟	建坪121坪

所有権移転は明治40（1907）年8月1日に桑名紡績が三重紡績に合併された
為である。桑名紡績当初とほぼ同じ建物が三重紡績に移転されているのがわか
る。坪数に若干の違いがあるが、最初の登記に錯誤があり、明治33年7月17
日付で登記更生がなされている。

桑名紡績最後の営業報告書（明治40年上半期）は建物の用途も記載されてい
るが、最大の煉瓦造は主工場である。木造瓦葺2階建（建坪121坪）3棟は寄
宿舎である。木造瓦葺2階建（建坪35坪）は病室である。倉庫は6棟（大小
さまざまであろう）である。その他に事務所・食堂・伝染病病室などの建物が
あり、他に煙突1基、井戸7ヶ所、橋及び棧橋3ヶ所がある。棧橋とは揖斐川
沿いであって、原料の綿花を四日市港から積んできた小船の船着き場だった。な
お、合併にさして、桑名紡績から桑名町に3万円が教育費として寄付されている。



この写真は2000年三重県が発行した『明治百景』から転載したが、上述のように桑名紡績時代は木造の倉庫であり、煉瓦造になったのは、三重紡績になってからと思われるので、『明治百景』のキャプションは誤りであろう。

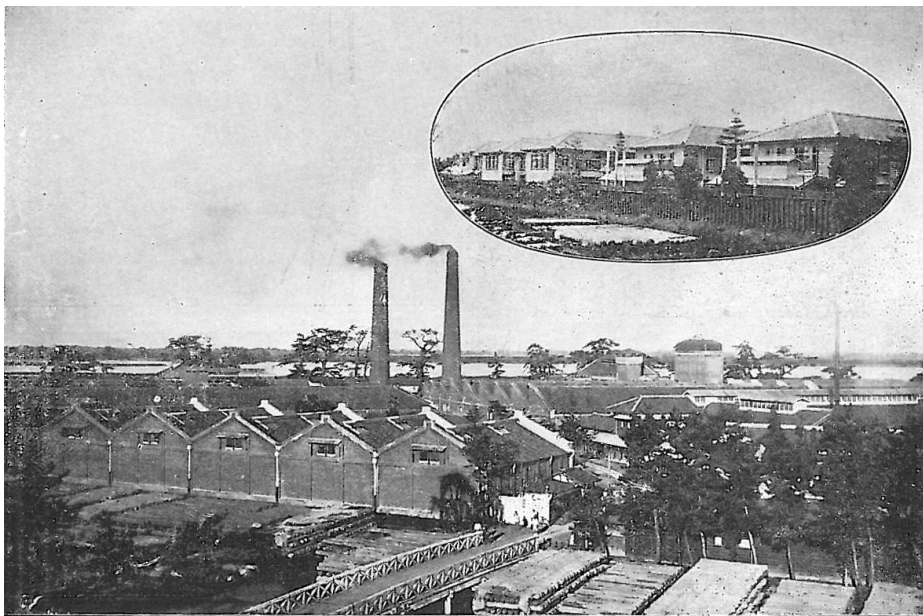
明治40年の合併時では土地は桑名町から借りていたのであるが、明治43年1月15日に桑名町から三重紡績に売り渡されている。その内容は

桑名町大字桑名字吉之丸1番地 市街宅地 9,520.32坪

桑名町大字三之丸 111 番地 市街宅地 1,629.89 坪

桑名紡績時代の土地は借地であって、主工場の煉瓦造 1 棟と木造寄宿舍が 3 棟、大きな木造倉庫の 2 棟が主な建物である。三重紡績となってから、建物も増築され、煉瓦造の第二工場も建設された。

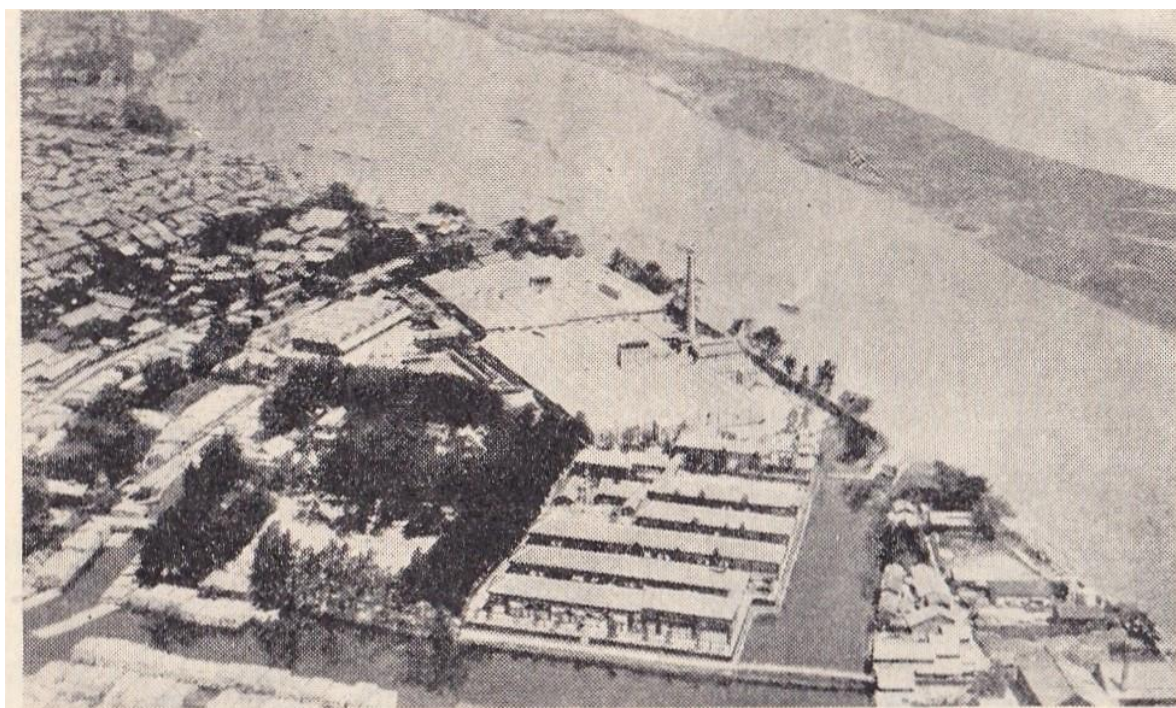
その時期は不詳だが、各年末の従業員数の推移をみると（『三重県統計書』）、明治 40 年に 821 人 41 年に 812 人、42 年に 1201 人、43 年に 1171 人と増加しており、とくに 42 年に大きく増加している。三重紡績となってから大きく増築され、設備も充実したのであろう。大正 3（1914）年に東洋紡績となった。なお大正 12 年の関東大震災によって、煉瓦造の建造物は地震に弱いことが判明したので、工場の煉瓦壁には帯鉄を添わせて耐震補強した。



合宿寄と景全場工名桑社會式株績紡洋東

この写真は、ほぼ全体が整備されたものである。煉瓦造倉庫も 5 棟あり、煉

瓦造の第二工場も見られる。木造2階建の寄宿舍4棟？や給水塔（中央の四角の
高い建物、揖斐川から受水したもの）、煙突も2本見える。堀には伊勢神宮の
遷宮用材らしいものが沢山見えるので、昭和4（1929）年の第58回式年遷宮の
ための用材と思われる。それから考えると、この写真は、大正時代末ころかと思う。



この写真は昭和9年発行の『東洋紡績株式会社要覧』に掲載されているが、戦前の
全体の姿である。寄宿舍は5棟あり、桑名城の堀に面している。煙突が1本になって
いるのは、関東大震災で倒壊したのかもしれない。

なお工場は昭和18年に三菱重工業へ賃貸され、航空機の部品を作る工場に転
換され、昭和20年の戦災で壊滅的打撃を受けた。



戦災後1 (小林カメラ撮影)



戦災後2 (同左)

そのため紡績工場としては復旧せず、焼け残った一部の建物を利用して、昭和21年から紙管会社（紙管とは紡績糸巻の芯になる紙の管）工場として使われた。焼失した第一工場跡からローマ字の刻印がある煉瓦が見つかったと紙管会社の先輩から私は聞いた記憶があるが、私は見ていない。また紙管会社は昭和53年に解散し、すべての建物は取り壊して、跡地は桑名市に売却された。その時に第二工場跡地から「イ、ロ、ハ」などの片仮名文字や、□、△が刻印された煉瓦が見つかった。また煉瓦造の小さな書類倉庫の屋根棟瓦には梅鉢紋（旧藩主の松平家紋）が載っており、「嘉永五壬子年八月 御瓦師 久保村源助」と刻まれていた。一面は壊されたが、もう一面のみ取り外して、我が家に永らく保管していたが、私は桑名市博物館に寄贈した。

「尾野山隋風」は桑高同窓会のホームページに連載して、ご愛顧を賜りましたが、私は桑高同窓会の顧問を辞任しましたので、今回を以て「尾野山隋風」は終了とします。